



# 学校だより

第 151 号 令和元年 10 月 30 日

## 「食べることは生きること、生きることは食べること」

ラグビーワールドカップ、盛り上がりましたね～。日本チームは南ア戦こそ敗退しましたが、史上初のベスト8進出を4連勝で勝ち取る快挙を成し遂げました。

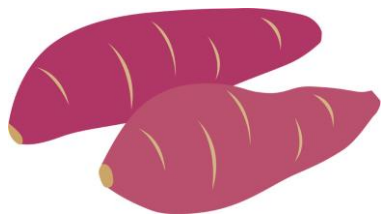
実は金沢養護学校でも「食のワールドカップ」が開催されていました。

9月の給食では、「ボルシチ」（ロシア）、「スコッチ・ブロス&スコッチ・エッグ」（スコットランド）、「フィッシュ&チップス」（アイルランド）、そして10月、「ウム（ココナッツ蒸し焼き）」（サモア）。子どもたちの食欲が、4ヶ国の料理を食い尽くし、日本の勝利を支えたことは言うまでもありません。（言い過ぎ？）



「食」を通じて世界を知る。この素敵なメニューを立案してくれたのは、栄養教諭の服部先生。日本代表の赤いジャージを着て校内を闊歩する姿を目にした方も多いのではないのでしょうか。

給食には様々な工夫が施されています。アレルギーへの細かな対応や、初期・中期・後期の配慮食はその最たるもの。食べやすく、安全に。ペースト状やムース状に加工された配慮食の多くは見た目にも彩り鮮やかで、見るからに食欲をそそる、「映える」出来となっています。先日の「給食試食会」でも、保護者の皆様がさかんに記念撮影をされていました。



分教室でも様々な「食の祭典」が企画されています。一学期の「カレーパーティー」は大人気でした。まもなくサツマイモの収穫時期を迎えます。「分ワングランプリ」では芋料理コンテストが開催されます。また、高等部A部門でも、収穫したサツマイモで「さつまいもポタージュ」を作りました。おいしかったですか？

冒頭に掲げたのは、服部栄養教諭の愛用しているTシャツに記された一文です。

生きるために、私たちは食べ続けます。食べることで、生きていることを実感できます。美味しく食べやすく調理された食事を楽しむことは、生きることを楽しむことに他なりません。食べるために作物を育て、命を育み、その命をいただくことで、私たちは生き続けます。

給食や調理実習で、校内での数々のイベントで、家庭での日々の食事を通じて、「食」を楽しみ「命」を噛みしめることを、大切にしていきたいと思えます。 【副校長・田上】

「食」に関しては辺見庸「もの食う人々」が古典的名作として知られています。

私のおススメは内澤句子「世界屠畜紀行」（解放出版社、のち角川文庫）。世界中の肉を食べ歩くルポルタージュで、そのエネルギーな面白さは抜群です。肉に取りつかれた作者が、離れ小島で一人暮らしをしながら三頭の豚を育て、それを食するまでの記録「飼い喰い三匹の豚とわたし」（岩波書店）も傑作です。あわせてどうぞ！